

2022 年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 ノースガイア

代表者・役職名 氏名 池田 律子・ホーム長

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 申請事業の名称

思い出に残すホーム旅行

2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

個別学習塾から始まりました。勉強だけでなく、社会に巣立つ若者に対してモラルの育成や生活・就労支援ができないかと考え、NPO 法人を立ち上げ、平成 30 年 8 月に事業を開始しました。支援者自身が多くの経験を重ね、異なった角度からサポートできていると思っています。この春、ホームのこどもが出演した『旅のはじまり』というヒューマンドキュメンタリー映画が公開されました。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

こどもたちは通信制高校に通っているため、就学旅行がありません。宿泊型スクーリングがありますが、2021 年度は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。ホームでも旅行を計画しましたが、やはり緊急事態宣言等で中止にせざるを得ませんでした。その時の彼らの残念な顔を見た時にいたたまれない気持ちになりました。この申請事業を通して、実施し、ホーム卒業までに楽しかったと感じられる思い出作りができればと思っています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

活動場所は大阪ユニバーサルスタジオジャパンでした。活動内容としては、2つのグループに分け、まず出発前にスケジュールをたてました。事前に、出発時刻とホームの帰着時刻のみを提示し、あとは各グループで3日間の過ごし方のスケジュールをたて、そこで思う存分楽しめるように話し合いました。週末を利用し2泊3日で実施となりました。活動の手順として、支援員を交えて、日程の確定・ホテルの予約・チケットの購入をこどもたちで行い、活動後に、振り返りの時間を設けて、各グループで活動報告を行いました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

精神障害をもって、自己主張が強かったり我慢ができないこどもがいますが、スケジュールに沿ってみんなで行動することで、協調性が生まれたと感じました。ホーム内ではあまり会話のないこども同士が同じグループになることで、コミュニケーションがとれ、うまく時間を使っていたと思いました。みんなが少しずつ我慢することで、活動がより楽しく実施できたと実感しました。それぞれが、いままで思っていた印象がよい意味で崩れたようです。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

予定では気候のいい10月の実施を考えていました。しかし、新型コロナウイルスの感染者数が増加しているというのを踏まえ、前倒して、7月に実施しました。話し合いの時間をとることが難しかったですが、短期集中で、予約までたどり着くことができました。熱中症対策は講じていましたが、想像以上の暑さで、徹底した対策が必要と感じました。今後は語学学習も含めて、海外研修を実施したいという意見がでました。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

